

SAK だより

Ski Association of Kanagawa

(財) 神奈川県スキー連盟

横浜市神奈川区台町16-1 ソレイユ台町407号室
電話 045 (311) 8907 FAX 045 (324) 6966
●発行者: 片 忠夫 ●編集責任: 徳本 進
http://www.sak.or.jp/

若い世代を 掘り起こせ!

普及振興委員会が
スタート

新たに総務本部の普及振興委員会が発足しました。目的は、大きく二つ。「普及振興事業の参加募集のルート開拓」と、「ジュニア事業の企画運営」です。



● 新チャンネルを開拓する ●

7月28日、学校職員や市役所職員を中心としたメンバーによる第1回目の「総務本部・普及振興委員会」が行われました。最初に上田総務本部長から委員会発足の目的について説明があり、続いて厚木スキー協会所属の青木文明氏が委員長に選出されました。

青木委員長からは、旅行会社の調査による「学校スキー実施状況」の説明があり、「昔、神奈川県内のスキー学校は盛んに行われていましたが、例えば厚木市内のスキー学校は、ここ3年で8割が消えていったようです。



今は、野球、サッカー、テニス、ラグビーなどで子どもの取り合いになっています」との話がありました。

さらに各委員から、「全県区対象は難しいので、ジュニアスキー教室を実施してほしくない小さなブロックに声をかけてはどうか」「今年度は小学生の高学年に絞って実施しては」「土曜日の夜に発して月曜日の午後帰ってきてもどうか」「できるだけ雪質のいい時期に実施してあげたい」など、来シーズンの実施を前提にした意見が相次ぎました。いずれも、現場の声を知らず人たちらではの頼もしいアイデアばかりで、今後の可能性を感じさせてくれました。(取材・大井智子広報委員)

子どもたちをゲレンデに呼び戻そう

青木 文明 (普及振興委員長)

最近、子どもたちがゲレンデに行く機会が少なくなりました。公民館や学校主催のスキー行事も減っています。子どもたちの姿が雪の上から消えるのは淋しいことです。これを何とかしたい。彼らが社会人になった時に、自分たちでスキーに行けるようにしたいのです。



一つは、小学生を対象にしたスキー行事を春休みに実施してはどうかと考えています。神奈川県には約800校の小学校があるのですが、例えば厚木愛甲地区では35校中約25校が日帰り遠足でスキー教室を実施しています。この直後に、ジュニア対象のスキー行事を実施すれば、「楽しかったから、もう一度行ってみたい」と参加してくれるのではないのでしょうか。

もう一つのアイデアは、公民館への働きかけです。公民館が主催する子ども対象の行事は「カヌー教室」や「ガラス細工体験」など夏の行事が多い。公民館を通じてパンフレットを配り、冬の行事をアピールしてはどうかと考えています。

普及振興委員会構成メンバー

- 担当理事 / 佐々木生道 (総務本部)
- 山田隆副会長、
- 片忠夫専務理事、
- 上田英之総務本部長、
- 清水忠 (教育本部)
- 委員長 / 青木文明
- 副委員長 / 内海雄三
- 委員 / 守谷紀幸、中里健二、守屋匡裕、安藤努、山下てるみ、中田修、早川博基

「ジュニア雪どろふれあいツアー」実施予定

日 程 / 2006年3月25日(土) ~ 27日(月)

場 所 / 車山高原 1.5泊

対 象 / 小学生 (4、5、6年)

募 集 人 数 / 80人

旅行代理店 / シティフェイス

平成18年度 執行方針

厳しい経済環境の中で、今年度も「厳しいスキー環境」を余儀なくされました。会員減少は続いており、収入が減る中、ニーズ、シーズは増えています。来期以降大胆な緊縮予算（参加費の値上げ、内部経費の削減等）の編成をせざるを得ません。

全体の運営は「和やかさ」「爽やかさ」を残しつつも、各事業を見直しニーズを拾いながら、集客力の無い事業は廃止し、徹底した合理化を推し進めます。また、安全対策委員会とタイアップし、保険の加入等を含め、安全対策を進めます。

I 総務本部執行方針

今年度は、スキー人口拡大に向けた事業の推進、インターネットなどでの情報公開を進めるなど、スノースポーツの振興に努めると共に、会員へのサービスについても向上を目指します。

- (1) 公益法人としての取り組み
- ・新公益法人会計基準に沿った運営への対応準備
- ・情報公開と、個人情報保護規程、ガイドラインの制定・実行
- (2) 収支均衡予算案、長期財政安定
- (3) 会員の拡大

- ・競技者登録の会員化検討
- ・県内小中学校との「雪とのふれあい事業」（ジュニア対象）企画
- (4) 協賛会員の拡大
- (5) SAJ会員登録の改善
- (6) インターネットとマスメディアの活用
- (7) ハンディキャップ行事
- ・賛助会員のお祝いと事業展開
- (8) 北海道事業、海外事業
- ・韓国行事は好評につき継続検討
- (9) その他
- ・「新事務所構想」継続検討

II 教育本部執行方針

昨年度に引き続き「各事業の見直し」に取り組みと共に、委員会制度を活用しながら、より一層の事業内容の充実に努めます。また、各事業は、指導者育成、有資格者の積極的行事参加の促進、選手強化に努力すると共にレベルアップを図って参ります。

- 1 スキー関連
 - (1) 各事業の取り組み
 - ・正指・準指受検者のため、土日開催及び同時開催事業や「五泊コース」設定
 - ・レベルアップ講習会対象拡大
 - (2) 選手強化と育成及びスキー技術選手権大会の運営
 - ・全日本スキー技術選手権大会男女決勝進出に向けて選手強化と選手発掘

- ・スキー技術選手権及び、環富士大会の発展
- ・若手選手育成及び競技本部指定選手との技術交流の検討
- (3) 教育本部専門委員の活動
- ・競技本部との連携を進め、指導に活かせる経験の蓄積
- ・教育本部専門委員の競技大会、技術選への参加の奨励
- (4) 北海道行事について
- ・参加者に喜ばれる行事の企画
- 2 パトロール関連
- ・指導員養成講習会・研修会における講義（実技含む）の検討
- ・競技大会含む各種行事への安全対策専門委員の積極的派遣
- ・パトロール技術競技大会強化として、養成講習会時に強化合宿を同時開催
- 3 スノーボード関連
- (1) 正指導員養成講習会開催
- (2) 準指導員養成講習会・準指導員検定会
- (3) レベルアップ講習会・スノーボード級別テスト
- ・レベルアップ講習会・スノーボード級別テストを「五竜」「車山Ⅲ」「車山Ⅴ」で同時開催
- ・「受験機会を増やして欲しい」との要望に添えて今年度3回開催
- (4) 指導員研修会
- ・今年度もSAJ理論研修テーマを元に開催

III 競技本部執行方針

競技スキーの大会運営は、運営費の負担が選手に掛かりますが、不景気の中で選手への負担を最小限にするため、「事業運営の効率」と「協賛企業の拡大」に力を入れ、全ての選手にとって魅力ある事業の開催に力を入れるよう努めます。

- (1) 大会運営と協賛企業拡大
 - ・事業の整理と運営方法等の見直し
 - ・現在の協賛企業は、(株)トール、東日本キャブピラーニ製機販売(株)、(株)大塚製菓の3社だが、更に冠レースの拡大を図り、活性化に努力する
 - (2) ジュニアの普及と選手強化
 - ・競技本部開催の全レースにジュニアクラスを設置。表彰クラスの細分化によって子どもたちに夢を与える
 - ・ジュニア長期育成計画の各年代での達成目標など育成プログラムの確立
 - ・団体における選手強化プログラムの確立と、企業、学校及び団体協などとの連携による選手の単年度強化
- (5) スノーボード技術選手権大会は
 昨年の経験から一日開催
- (6) 全日本スノーボード技術選手権大会監督・選手派遣

平成18年度 教育本部行事計画

HC=ハンディキャップ参加の可否

No	行 事 名	会 場	日 程	H C	
1	研修会理論	指導員研修会理論	小田原市民会館	17年/11/13 (日)	
2	養成講習会	指導員養成講習会・理論1	かながわ労働プラザ	17年/10/23 (日)	
		指導員養成講習会・理論2	かながわ労働プラザ	17年/11/6 (日)	
3	北海道行事	スキー指導員研修会 (A) スキー検定員クリニック (A) スキー指導員養成講習会 (A) スキー技術強化合宿 (A) (一般対象レベル、強化選手対象) スキーブライズテスト (A) 県民スキースクール (A) (級別テスト) 県民スノーボードスクール	北海道	17年/12/13 (火) ~12/18 (日)	
4	尾瀬岩鞍行事 (SB)	スノーボード専門委員研修会	尾瀬岩鞍	17年/12/23 (金)	
5	車山行事Ⅰ	スキー指導員研修会 (B) スキー検定員クリニック (B)	車山高原	17年/12/24 (土) ~12/25 (日)	
6	野辺山行事	スキー指導員研修会 (C) スキー検定員クリニック (C)	レーシングキャンプ野辺山	18年/1/7 (土) ~1/8 (日)	
7	五竜行事Ⅰ	スキー指導員研修会 (D) スキー検定員クリニック (D) スキー指導員養成講習会 (B) スキー技術強化合宿 (B) (強化選手) スキー級別テスト (A) スキー技術レベルアップ講習会 (A) (2級~テクニカル) パトロール養成講習会 (A) パトロール強化合宿 (A)	白馬五竜	18年/1/13 (金) ~1/15 (日)	可
		スキー指導員研修会 (E) スキー検定員クリニック (E) スキー指導員養成講習会 (C) スキー生涯スポーツリーダ講習会 (A) スノーボード指導員養成講習会 (A) スノーボード指導員研修会 (A) スノーボード技術レベルアップ講習会 (A) スノーボード級別テスト (A) 障害をもつ方のためのスキー教室 (第7回)		18年/1/14 (土) ~1/15 (日)	可
8	車山行事Ⅱ	第5回SAK・SACスキー技術選手権 (千葉県と共催) 第11回学生スキー技術選手権	車山高原	18年/1/21 (土) ~1/23 (月)	可 可
9	湯沢行事	スキー指導員養成講習会 (D) スキー指導員養成講習会 (E) スノーボード指導員養成講習会 (B)	ガーラ湯沢	18年/1/27 (金) ~1/29 (日) 18年/1/28 (土) ~1/29 (日)	
10	五竜行事Ⅱ	スキー指導員養成講習会 (F) スキー指導員養成講習会 (G) スキー専門委員強化合宿 (A)	白馬五竜	18年/2/3 (金) ~2/5 (日) 18年/2/4 (土) ~2/5 (日)	
11	韓国行事	スキー指導員研修会 (F) スキー検定員クリニック (F) 県民スキースクール (B) (級別テスト)	ドラゴンバレー	18年/2/2 (木) ~2/5 (日)	
12	菅平 (SB) 行事	第6回SAJスノーボード技術選手権関東大会	菅平 (または石打丸山)	18年/2/19 (日)	
13	五竜行事Ⅲ	スキー指導員養成講習会 (H) スキーブライズテスト (B) パトロール養成講習会 (B) パトロール強化合宿 (B) スキー指導員養成講習会 (I)	白馬五竜	18年/2/17 (金) ~2/19 (日) 18年/2/18 (土) ~2/19 (日)	可
14	車山行事Ⅲ	スキー指導員養成講習会 (J) スキー技術レベルアップ講習会 (B) (2級~テクニカル) スキー指導員養成講習会 (K) スノーボード指導員研修会 (B) スノーボード技術レベルアップ講習会 (B) スノーボード級別テスト (B) 第6回車山チャレンジカップスキー大会 (指導員主催)	車山高原	18年/2/24 (金) ~2/26 (日) 18年/2/25 (土) ~2/26 (日) 18年/2/25 (土)	可
15	車山行事Ⅳ	スキー準指導員検定会 (理論・実技) スキーBC級公認検定員検定会 (A) SAJスノーボード準指導員検定会	車山高原	18年/3/3 (金) ~3/5 (日)	
16	五竜行事Ⅳ	第5回環富士山スキー技術選手権 (千葉県主管)	白馬五竜	18年/3/11 (土) ~12 (日)	可
17	車山行事Ⅴ	スキー指導員研修会 (G) スキー検定員クリニック (G) スキーBC級公認検定員検定会 (B) スキー技術レベルアップ講習会 (C) (2級~テクニカル) スキー級別テスト (B) スキー生涯スポーツリーダ講習会 (B) ジュニアの雪とのふれあい (ジュニアテスト開催) スノーボード指導員研修会 (C) スノーボード技術レベルアップ講習会 (C) スノーボード級別テスト (C) 障害をもつ方のためのスキー教室 (第8回)	車山高原	18年/3/25 (土) ~3/26 (日)	可
18	海外行事	2006オレゴンスキーツアー	オレゴン・マウントバチェラー	18年/3/13 (月) ~3/19 (日)	

平成18年度 競技本部行事計画

1. 連盟主催事業

HC=ハンディキャップ参加の可否

No	行 事 名	会 場	日 程	H C
1	第4回野辺山チャレンジCUP第1戦東日本キャタピラ三菱大会	長野県・野辺山	17年/12/23(金)～12/25(日)	
2	第64回神奈川県スキー選手権・ノルディック	新潟県・池の平	18年/1/2(月)～1/3(火)	
3	第11回南関東ノルディック競技会兼第61回国体神奈川県選考会	新潟県・池の平	18年/1/20(金)～1/22(日)	
4	第28回神奈川県民体育大会・ノルディック	新潟県・池の平	18年/1/20(金)～1/22(日)	可
5	第7回神奈川県クロスカントリーマスターズ選手権	新潟県・池の平	18年/1/20(金)～1/22(日)	可
6	第4回神奈川県マスターズ第1戦	新潟県・上越国際	18年/1/20(金)～1/21(土)	
7	第7回神奈川県ジュニア選手権	新潟県・上越国際	18年/1/20(金)～1/21(土)	
8	第28回神奈川県民体育大会・アルペン	新潟県・上越国際	18年/1/21(土)～1/22(日)	
9	第61回国体スキー競技会神奈川県選考会	新潟県・上越国際	18年/1/22(日)～1/23(月)	
10	第23回神奈川県スキー選手権・スピード系	新潟県・上越国際	18年/1/23(月)～1/24(火)	
11	SAJ B級公認第7回神奈川県モーグル競技会	長野県・佐野坂	18年/1/27(金)～1/28(土)	
12	第4回岩岳チャレンジCUP第2戦兼第7回クラブ対抗アルペン競技会SAKマスターズ第2戦	長野県・岩岳	18年/1/27(金)～1/29(日)	
13	H/C岩岳チャレンジCUP	長野県・岩岳	18年/1/27(金)～1/29(日)	可
14	第64回神奈川県スキー選手権・アルペン兼神奈川県ジュニアスキー大会	新潟県・上越国際	18年/3/3(金)～3/5(日)	
15	第3回歩くスキーバスツアー	群馬県・草津温泉	18年/3/25(土)～3/26(日)	
16	第4回野辺山チャレンジCUP第3戦	長野県・野辺山	18年/3/31(金)～4/1(土)	
17	第3回トーエルCUPスキーフェスティバル	長野県・野辺山	18年/4/2(日)	可
18	第7回クラブ対抗駅伝競技会	神奈川県・相模原	18年/5/14(日)	
19	FIS公認第11回神奈川県スノーボード選手権大会	群馬県・尾瀬戸倉	18年/1/13(金)～1/15(日)	

2. 連盟主催 選手強化・普及合宿

HC=ハンディキャップ参加の可否

No	行 事 名	会 場	日 程	H C
1	ノルディック秋季ローラー講習会	山梨県・山中湖	17年/9/23(金)～9/25(日)	
2	ノルディック合宿兼フレッシュマン講習会	新潟県・池の平	17年/12/29(木)～1/2(月)	可
3	アルペンジュニア合宿・野辺山(Ⅰ)	長野県・野辺山	17年/12/27(火)～12/30(金)	
4	アルペンジュニア合宿・野辺山(Ⅱ)	長野県・野辺山	18年/3/22(水)～3/24(金)	
5	アルペンジュニア合宿・八幡平	秋田県・八幡平	18年/4/27(木)～5/3(水)	
6	第61回国民体育大会合宿	群馬県・岩鞍	18年/2/16(木)～2/18(土)	
7	全日本スノーボード合宿	群馬県・岩鞍	18年/1/11(水)～1/12(木)	

3. SAJ主催・各種公認大会選手、役員派遣事業

HC=ハンディキャップ参加の可否

No	行 事 名	会 場	日 程	H C
1	第61回国民体育大会冬季大会スキー競技会	群馬県・岩鞍	18年/2/19(日)～2/22(水)	
2	第57回神奈川県総合体育大会	長野県・白馬五竜	18年/2/24(金)～2/26(日)	
3	第26回全日本フリースタイル選手権	未 定	未 定	
4	全日本マスターズ選手権大会	秋田県・田沢湖	18年/3/3(金)～3/5(日)	
5	全国中学校スキー選手権大会	新潟県・妙高	18年/2/5(日)～2/8(水)	
6	第21回関東スキー選手権大会	群馬県・岩鞍	未 定	
7	(B級公認)南関東ブロック野辺山スラローム大会	長野県・野辺山	18年/3/28(火)～3/30(木)	
8	神奈川県中学校・高等学校スキー選手権大会	新潟県・津南町	18年/1/3(火)～1/7(土)	
9	SAJセミナー	北海道	未 定	
10	ジャパーナカップマスターズポイントレース1	長野県・野辺山	18年/1/19(木)～1/20(金)	
11	ジャパーナカップマスターズポイントレース2	長野県・野辺山	18年/2/9(木)～2/10(金)	
12	ジャパーナカップマスターズポイントレース3	長野県・野辺山	18年/3/4(土)～3/5(日)	

4. SAK役員育成事業

HC=ハンディキャップ参加の可否

No	行 事 名	会 場	日 程	H C
1	競技本部セミナー(第1回)運営管理1	神奈川県福祉会館	17年/7/10(日)	
2	競技本部セミナー(第2回)運営管理2	未 定	17年/11/13(日)	

5. 競技力向上事業

HC=ハンディキャップ参加の可否

No	行 事 名	会 場	日 程	H C
1	競技力向上選手強化対策(Ⅰ)	未 定	未 定	
2	競技力向上選手強化対策(Ⅱ)	未 定	未 定	
3	競技力向上ジュニア対策事業	未 定	未 定	

指導員会だより

幹事長 藤木 昇

本年度の指導員会

「みんなスキーの仲間」をめざして



真夏の最中、スキーやブーツの新作発表会も開かれているようですが、低調とも聞いています。長いスキー不況の中にあつて私達スキー指導員は先達として何をなすべきかが問われています。

指導員会は、会員のスキーに対する情熱や経験をもとに、その資質の向上に寄与し、会員相互の親睦をはかる事により楽しいスキーライフの一助としてその活性化に努力して参りました。また広く門戸を開き、会員が一般国民のスポーツにも貢献できるような場も提供してきました。

ジュニアへのスキー指導や各種団体の要請にこたえる指導の場を会員に提供する為、指導員バンク登録制度を拡充

し指導員の派遣を行い好評を得ております。

今年度の活動は初の試みとして、屋内雪上施設スノーヴァ新横浜と提携してスキー教室の定期開催など、楽しいスキーの普及を行いながら会員の交流の場として使用する企画も実施します。

自分自身の向上のために、「陸上体カトレーニング」や「雪上トレーニング」、また指導のノウハウ向上のための実践教室「スキーティーチングセミナー初級」に加え「中級」の講習会を行います。

本年度も、新人歓迎と会員の情報交換も兼ねた総会懇親パーティーや、スキルアップの行事、温泉スキー行事、競技志向行事も行います。

温泉とスキーの楽しさを盛り込んだ「草津や片品のんびりスキー」、洒落たりゾートホテルの楽しさを加味した「エンジョイ小海」などのスキーツアーも企画しました。

オール神奈川は参加し易い日程にしましたので奮ってご参加ください。

その他指導員会フェスティバルは家族そろって、又はクラブの納会行事としてご利用下さい。

以下に今年度の行事一覧表を載せました。

詳細はURL<http://sik.arts-n.com>をご覧ください。

行事一覧

No	行事名	期日	場所
1	ティーチングセミナー（初級） 指導者のティーチングスキルアップ初級	9月3日（土）	NEC玉川クラブ
		10月2日（日）	スノーヴァ新横浜
2	ティーチングセミナー（中級） 指導者のティーチングスキルアップ中級	10月22日（土）	上飯田地区センター
		12月10日（土）	奥志賀高原スキー場
3	コンディション（体力）トレーニング講習会 スキーの性能を生かし、障害／傷害・事故防止と競技力・スキー技能向上の為に	9月23日（金）	上飯田地区センター
		10月22日（土）	
		11月19日（土）	かまくらコース
4	第71回 親睦ゴルフコンペ（秋季大会）	10月27日（木）	上野原カントリークラブ
5	雪上トレーニング講習会	12月10日（土）～11日（日）	奥志賀高原スキー場
6	草津 スキーと温泉を楽しむ会	1月15日（日）～18日（水）	草津国際スキー場
7	片品 スキーと花咲温泉ツアー	2月5日（日）～7日（火）	おぐなスキー場
8	第6回車山チャレンジカップスキー大会	2月25日（土）	車山高原スキー場
9	エンジョイスキー-in小海	3月2日（木）～4日（土）	小海リエックススキーバレー
10	第25回オール神奈川スキーヤーズ大会	3月11日（土）～12日（日）	八海山麓スキー場
11	第22回指導員会フェスティバル	4月1日（土）～2日（日）	車山高原スキー場
12	第72回 親睦ゴルフコンペ（春季大会）	5月中旬	
SV	スノーヴァ新横浜：屋内雪上スキー講習会	H17年9月～5月（毎日曜午前）	スノーヴァ新横浜

発刊第50号記念

SAKだよりの生みの親
中村孝さんにお話を伺いました

創刊当時は苦勞の連続

昭和52年10月にSAKだより第1号を創刊しました。私は、総務理事としてSAKだよりの発刊に携わっていました。

SAKだよりを引き受けたのは、私が所属していた川崎スキー協会の片岡春夫さんが副理事長をやっていた。「お前、暇だろうから、県連でも行つてこいよ」の一言で決まったような感じでした。それから8期16年間理事をやりました。そのほか総務、普及（今の教育本部）、専門委員、会計もやっとな。当時、連盟事務所が金港町の焼き鳥屋の隣にあって、すごく狭かったのを記憶しています。

当時は、広報委員会はまだなくて、私一人で編集作業をやっていました。ほかにも総務理事はいたのですが、「まあ、がんばれよ」の一言でおしまいですよ。

記事は、「評議員会終わる」、「三ノッパツター」などで、原稿をどうやって集めようか苦心しました。



今のようには、パソコンはなく、ワープロが始めた時期で、東芝のルポが6文字だか8文字だかの表示しかないような機種だったけれど、2、3万円ぐらいで買えたかな。もううちはすべて手書きで、誤字脱字は当たり前、中にはくせ字で読めないものもありました。割付もほとんど勘でやりましたから、結構大変でした。

新橋の総合プランニングセンターという印刷業者に友人がいて、第3号からこのSAKだよりのロゴマークやデザインを作ってくれたので、それを使うと使っていました。【今も使わせていただいています】

そのほか、各部の理事の似顔絵なども描いてもらったなあ。やはり、字ばかりじゃ読んでもらえないですからね。

年2回の発行で、4月の総会の時期と忘年会の時期に半年遅れのSAKだよりをもちょうこもあって、よく苦情を言われましたよ。【今も結構そんな話多いです】

8号までは、私一人で編集していましたが、とても一人ではやりきれないということと、9号から広報委員会を組織して編集を行いました。とはいっても、最初から委員が全部できるわけではないので、9号、10号くらいまでは美質私が編集をやったように記憶しています。それ以降は、委員会にお任せしました。広報委員も、当時10数協会のうち半数ぐらいしか委員を出してくれなかったし、実際に編集をやってくれたのは2、3人というところでしたかね。

50号まで続くなんて

50号なんてよく続いたなあというのが、正直な感想ですね。ともかく、これだけの歴史を残してこられた、その基礎を築いたんだと言われるのは、うれしいですね。

最初の頃は一生懸命で早稲早稲にやっていたけれど、なれてくると編集のこつがわかってくるので、ぎりぎりまで放っておいて、一気に編集作業をするようになったのですが、それがかえって仕事を大変にしていたかもしれませんね。

当時は、記事の依頼も理事会の議事に乗せてもちょうこ決定していましたが、原稿の締め切りはなかなか守ってもらえませんでしたね。ただ、割り当ての原稿については、各担当本部が責任を



持つて提出するということだけは、きちんと守ってもらっていました。

だいたい11、12号くらいまでSAKだよりと広報委員会に携わっていました。当時でも、各行事の現地取材をして記事を書きたいと言つた委員もいました。今は、その辺もうまくいっているようで、うらやましいですね。

現在のSAKだよりに関して言えば、サイズ、紙質ともいいと思いますよ。あと、2面以降もカラーにしたらいいなと思います。【予算が…】HPも時々見えますよ。すごく情報が早くていいですね。

ともかく、今後皆さんでSAKだよりをよりよくながら続けていってください。陰ながら応援していますよ。

（取材・守谷紀幸 広報委員長）